

グループホーム 照日ヶ丘

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>新任職員も含め、理念をより理解していただく為に、研修会を行うようにしている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>もっと地域に出向き、グループホームの理解につながるような取り組みをしていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>在宅介護支援センターとも連携し、事業所として地域活動に参加できるような取り組みを話し合い行っていきたい。</p>

グループホーム 照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	在宅介護支援センターと協力し、少しでも地域に貢献できればと思っているが、実践には至っていない。		職員とどういふことができるかを話し合い、実施できるように取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	外部評価の意義を職員が理解し、昨年の評価内容を活かし、改善できるように取り組んでいる。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進会議では、利用者の状況や現状を報告しているが、今年度も3回の開催となる。		意見交換だけではなく、利用者とおやつ作りなど一緒に行うなど利用者に係る事も検討していきたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	役場に出向いた際は、担当者とグループホームの現状等を話したり、地域の情報等もいただき、サービスの向上に努めている。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	制度を利用されている方がおり、機会があるごとに職員が理解できるように資料等を利用し、説明を行い利用者の支援につなげている。		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	高齢者虐待法の研修を開催したり、日々の中でどういふことが虐待になるかを事例をあげながら、全職員が理解できるように努めている。		お互い注意を払い、虐待防止に取り組んでいきたい。

グループホーム 照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書、契約書などをわかりやすく説明し、事業所の方針やできる事とできない事を明確に説明し、理解、納得していただけるようにしている。日頃から、不安なこと等がないか伺うようにしている。</p>		<p>より分かりやすく説明ができるように具体例等を挙げながら、説明を行っている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々利用者から意見をだしていただけるような雰囲気作りを行っている。出された意見は、全職員で話し合い運営に反できるようにしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日々の生活を写真に撮り、一人ずつのアルバムを作っている。ご家族の面会時見させていただきながら、状態を報告している。健康状態に関しては、変化があった時は報告している。</p>		<p>たより等の発行も検討したが、実施までにはいならず、今後もより状態がわかるように取り組みたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を玄関に設置し、少しでも意見や要望を聞けるようにしている。ご家族には、来苑時に積極的に声をかけ、何でも話していただけるような雰囲気作りを行っている。出された意見は、全職員で発生要因等を話し合い、ご家族には結果等を報告するようにしている。</p>		<p>普段の会話の中からも、引き出せるように職員一人ひとりが意識を持ち、ご家族等に接するように努めていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>休憩時間等を利用し、意見等聞くようには心掛けており、提案等があった場合は、受け入れ他の職員とも話し合うようにしている。</p>		<p>職員からの提案等は言いにくい事もありあまりないが、日々職員からの意見等出していただけるように働きかけ、反映できるように努めたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態に応じた体制がとれるように、その都度話し合い、勤務調整に努めている。</p>		<p>利用者の安全が確保できるように、柔軟な体制ができるように取り組んでいきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者、ご家族との信頼関係を築く為にも、馴染みの職員が対応する事が重要であると考え、各ユニットの職員を固定化している。離職等の場合も利用者が不安にならないように引き継ぎ面を配慮している。</p>		

グループホーム 照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員に対しても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員募集や採用については、性別、年齢等を採用対象にはしていない。職員に対しても一人ひとり尊重し、有する能力を認め、業務に反映できるように配慮している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>研修会の他日々のケアの中で人権などについて話をしている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>計画的な研修計画はないが、新任職員に対して、また外部研修にも参加するようにしている。</p>		<p>職員を育てる仕組みを段階的、また計画的に実施できるようにしたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>情報交換程度しかできていない。</p>		<p>他の事業所との交流する機会も予定していたが、実施できず。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスの要因について気を配り、職員間の人間関係を把握するように努めている。何かあればいつでも話ができるような雰囲気作りも大切にしている。</p>		

グループホーム 照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も事業所を頻回に訪れ、職員に声をかけている。また、職員の勤務状況も把握しており、職員が向上心を持って働けるように職能評価を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、ご家族から情報収集を行い、生活状態を把握するようになっている。担当のケアマネージャーとも連携し、情報を活かし信頼関係が築けるように努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の不安な事や求めている事等気軽に話していただけるよう、雰囲気作りを大切にしている。		ご家族の方は、遠慮しているところもある為、日頃から信頼関係が築けるように取り組んでいきたい。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の思いや状況を確認し、できる事はすぐに対応するようになっている。できないと思われることに対しても、どうにかできないかを職員で話し合い、対策を考えるようになっている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族に見学していただき、事業所の理念等も話をさせていただき、納得してから利用していただくようになっている。利用に不安がある場合は、職員が送迎を行い遊びに来ていただく事を繰り返し、安定するのを見極め、利用していただくようになっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、人生の先輩であるという考えを常に頭に置き、普段の生活の中から利用者へ教えていただく事の工夫や利用者が主人公になれる場を作れるように心掛けている。		利用者の希望する行事や食事作り等を通し、一人ひとりが主人公になれる場を設けていきたい。

グループホーム 照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事等、ご家族とも情報が共有できるようにし、利用者ができる事を一緒に考えて行けるように働きかけている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までの家族関係を理解し、その中でできるだけ良い関係が築けるように支援している。外出や外泊で一緒に過ごす事を勧めたり、行事への参加も促している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に立ち寄った際、近所の方を訪問したり馴染みの場所にドライブに行く等し、今までの関係が途切れないようにしている。系列のデイサービスや施設の馴染みの方ともお互いに行きできるように関係が途切れないように支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立せずにみんなで楽しく過ごしたり、気の合った利用者同士で過ごせるように配慮している。利用者間がうまくいくように職員が調整役となりお互いが支え合えるように努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設入所や入院で契約が終了された方に対しても、施設や病院を訪ね本人やご家族とも関係を断ち切らないように付き合いを大切にしている。困ったことがあれば、連絡をしていたくように話をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	望む暮らしを常に考え、利用者、ご家族から情報を引き出したり、何を望まれているか等、日頃の会話の中から見つけるようにしている。表現が難しい利用者に対しては、ご家族の情報や本人の表情から読み取るようにしている。		

グループホーム 照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントだけで把握するのではなく、会話の中からもこれまでの暮らし等が引き出せるように努めている。地域での人間関係や親せき関係等の把握にも努めている。		アセスメント表に新たに知りえた情報を等を記載しやすいように書式等を検討したい。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間で話し合いをもち把握するようにしている。日々の変化なども常に気をつけるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自分らしく暮らせるように本人、ご家族の意見の他、栄養士、看護師等の意見も聞きながら、介護計画に反映できるようにしている。		本人、ご家族の要望や意見を日頃より伺いながら、介護計画に反映できるように努めたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月ごとに見直しを行っているが、状態変化があった場合は、必要な関係者とその都度見直しを行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気づいた事や状態変化は、個別に記録をし職員間の情報を共有できるようにし、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列のデイサービスや施設の方をを訪問したり、行事への参加も行っている。自宅へ帰りたい、買い物へ行きたい等できるだけ要望に応えられるようにしている。		

グループホーム 照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域密着型サービスであり、近郊からの利用者が多く、生活歴を参考にしながら対応を図り支援している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所された後に、他のケアマネジャーと連携することはないが、系列のデイサービスや特養とは、連携をとりながら支援している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加しているが、それ以外の連携はとっていない。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、在宅でのかかりつけ医がそのまま診ていただけるように話をしている。往診体制がなかったり、遠方等の医療機関については、話し合いをもち、既往歴から判断し対応できる医療機関を紹介している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に認知症専門医がおり、連携体制をとり指示や助言をいただいたり、こちらから相談等を行っている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員がおり、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援が行えるようにしている。系列の施設の看護師とも情報が共有できるように協力体制を図っている。		

グループホーム 照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時には、本人の支援方法の情報を医療機関に提供している。職員もできるだけ面会に行き、その都度状態を医師や看護師に伺い、ご家族とも連絡をとりながら早く退院ができるようにしている。</p>		<p>入院時の情報をもとに職員間で話し合いをもち、退院時のケアがスムーズに行えるように努めている。退院されてからは、今までの生活ができるように状態をみながら、支援している。</p>
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や、終末期の対応については、主治医とご家族を交え、話し合いをもち事業所としてできる事、できない事の説明も行っている。可能な限りホームでケアを行う方針であり、職員も理解してる。</p>		<p>新任職員もいる為、系列の特養で研修を実施し、知識や技術習得ができるように取り組みたい。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人やご家族の意向を踏まえ、事業所としてできる事、できない事を見極め、今後考えられる事等を主治医と連携をとり支援できるように努めている。</p>		<p>緊急時の対応ができるように研修や、日頃から職員と話をしている。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の事業所にうつられた場合は、本人の状態やケアプラン等を渡し、情報交換を行っている。移り住む先でケアが継続されて不安なく生活ができるように努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者に対しては、人生の大先輩である事を心がけ、尊厳を傷つける事のないように言葉使いには、十分注意するようにしている。個人情報に関しては、職員が理解しており、漏れる事のないように配慮している。記録等は、事務室の鍵付きの書棚に保管している。</p>		

グループホーム 照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	能力把握を行い、個々の利用者に合わせて声かけを行うようにしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの利用者の生活習慣を大切に、希望に添えるように支援している。起床、就寝、食事の時間等も本人のペースで過ごせるようにしている。		利用者が主人公である苑の考えを職員が理解し対応をしている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	散髪については、今まで利用されていた理容・美容院に行けるように配慮し、身だしなみについても声かけや、援助を行っている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや後片付け等職員と一緒に、職員は各自弁当を持参しているが、職員と利用者が一緒に食事ができるよう雰囲気作りは大切にしている。夕食は、夜勤者が利用者と同じ食事を一緒に食べるように心掛けている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好品を把握しており、状態や時間をみながら楽しめるようにしている。それらを買うに行くことも楽しみのひとつとしている。たばこについては、職員が管理しており、他の方の迷惑にならないよう吸う場所を決めている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄サイクルを把握し、介助を行っている。便秘の方にも下剤に頼るのではなく、食事、水分、運動等からも支援している。		

グループホーム 照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施しており、その日の希望に応じゆっくりと入浴ができるように支援している。拒否が強い利用者にも声をかけを工夫しながら最低週2回は入浴を実施している。		今後も希望に合わせた入浴ができるようにしていきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切にしており、生活リズムを整えるように努め、体調や表情を見ながら休息を促している。夜間眠れない時は、温かい飲み物を出したり、話をする等の配慮をしている。		
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味を活かし個々の能力が発揮できる場面を随時作っており、役割の大切さを支援している。外出先や、おやつ、食事作りの楽しみ事も利用者や相談しながら行っている。		個々の力が活かせるよう生活歴等の情報収集し、支援していきたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持つ事の意義を理解し、ご家族と相談しながら本人の金銭管理の支援に取り組んでいる。買い物やされた時は、自分の財布から支払っていただくようにしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や気分にお応じて買い物やドライブに出かけている。外食や手作りのお弁当を持ち戸外へ出かける事も行っている。芝生広場を利用し、食事やレクレーションを楽しんでいる。		地域の行事等を事前に収集し、計画を立てている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お彼岸やお盆等のお墓参りは、ご家族と相談、協力し希望に添えるようにしている。ご家族が来られた時に、食事や地域の行事等に一緒に出かける働きかけをし、支援をしている。		今後も利用者やご家族の希望に添えるように働きかけたい。

グループホーム 照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話ができるように配慮している。ご家族や知人の方から贈り物が届いた時等は、お礼の電話をしたり、手紙等が届いた時は、できるだけ返事が出せるようするなど配慮し、関係が途切れないようにしている。		日頃から電話や手紙等のやり取りができるようにこちらから働きかけていきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも都合の良い時に来ていただけるようにしている。居室、ホールでもゆっくり過ごしていただけるようにし、お茶やコーヒーなどを出し、少しでもくつろいでいただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束になるものを日々のケアの中で具体的に挙げ、職員に理解できるようにし、身体拘束がないように取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、タッチ式の自動ドアで対応しており、日中は施錠は行っていない。職員は、鍵をかける事の弊害を理解しており、行動や落ち着かない利用者には、本人に気づかれないように職員が見守りを行っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者があるホールで記録等を行いながら、全員を把握するようにしている。自室で過ごされている方にも、プライバシーに配慮しながら訪室し状態が把握できるように努めている。夜間は、数時間おきに巡回を行い、必要な利用者に対しては、センサーを利用している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物等は保管場所を決めて管理している。一律に片づけてしまうのではなく、利用者の状態に応じ対応している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	状態に応じて想定される事故を職員間で話し合いながら、事故防止に努めている。また事故報告書やヒヤリハット報告書を活用し、事故防止に努めている。		

グループホーム 照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを整備し、対応ができるようにしている。異物除去法や吸引器使い方等日頃から対応できるように訓練を行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に協力していただき、避難訓練や消火訓練等を実施し、独自でも通報の訓練など行い、避難場所の確認もしている。照日台団地の		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状況により起こり得るリスクに対しては、適宜説明をし理解していただくようにしている。医療関係については、主治医に依頼し説明をしていただくようにしている。		事故報告書やヒヤリハット報告書の書式を見直し、少しでも原因や気づきなど新たな発見ができるようにしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃の状態を把握し、少しでも異常や変化があった場合は、バイタルチェックを行い看護師に報告し対応をしている。系列の看護師とも情報を共有し、連携を図っている。		病歴の中で特異な病気については、症状ひとつひとつ研修会を行っている。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を添付し、副作用については職員が把握している。服用時は、職員が名前を確認のうえ手渡しをし、服薬が確実に行えた事を確認している。薬の処方が変わった時は、職員に伝達し状態を記録し、主治医にも連絡をしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、薬に頼るのではなく水分摂取に留意し乳製品を摂っていただいている。また散歩等体を動かす機会を設けるようにしている。下剤を服用する場合は、主治医に相談している。		

グループホーム 照日ヶ丘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を職員が理解し、毎食後の口腔ケアを実施している。自分でできない方には援助し、できる方にも磨き残し等がないか確認をしている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士、看護師と相談しながら対応をしている。食事が摂れにくくなった場合は、本人の好きな物を提供している。水分摂取の重要性を職員が理解し、1日の必要量を目安に飲んでいただくように、提供できる種類も多く準備している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症のマニュアルを整備しており、職員は周知している。流行の時期には、看護師が注意点や、対応について再度話をし、研修等も行っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきんやまな板は毎日漂白剤にて消毒をし、天日干しを行っている。食品に関しては、賞味期限等をチェックしている。冷蔵庫や冷凍庫の食材も点検し衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花を植えたり、裏の芝生広場を散歩や子供たちの遊び場にしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に心がけ植物を飾ったり、利用者に季節の花を行けていただく等し、季節感を感じていただけるようにしている。		

グループホーム 照日ヶ丘

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダや玄関にソファやベンチを置き、いつでも話ができる空間を確保している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも馴染みの物や使い慣れた物の必要性を説明し、自宅で利用していた家具などを持ってきていただくようにしている。搬入等は、職員と一緒に取りに行く等の協力をしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	においに対しては、注意をしており、独特のにおいがしないように常に気を配り、換気を行っている。においが気になる時は、消臭剤も利用している。温度管理は、利用者の状態に応じてこまめに行っている。		空気清浄機をトイレに設置しており、必要に応じ増やすようにしているが、現状では換気に対応している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が利用する物は、使いやすいように配慮している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱の原因を考え、状況に合わせて環境整備し、安心して生活できるように努めている。		利用者の状態は、取り巻く環境で変化する為、その時の状態に合わせた対応ができるように支援していきたい。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	芝生広場を外気浴やレクリエーション活動、や外食等に利用をしている。ベランダに物干し台を設置し、利用者が洗濯物を干したり取り込んだりできるようにしている。		

グループホーム 照日ヶ丘

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 照日ヶ丘

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・社会福祉法人みのり会が昭和63年からこの地にあり、特別養護老人ホームとして多くの活動をしている。グループホーム照日ヶ丘としては、この点を大いに活用し、地域行事や地域の方々との接する場に出ていきたい。また、法人として地域を巻き込んだ行事も多くあり、積極的に活用していきたい。 ・特別養護老人ホームで勤務経験がある職員も多く、利用者の重度化に対しても経験があり、できる限りこのグループホームにいたいという利用者及びご家族の希望をかなえていきたい。その為には、経験者が職員の教育をし、また教育の場として特別養護老人ホームをうまく活用していきたい。